

研究課題名「地域在住者における飲酒と認知機能の関連性」に関する情報公開

1. 研究の対象

2009年に北海道八雲町で行われた住民検診に参加された方

2. 研究目的・方法・研究期間

近年の日本では高齢化が大きな問題として注目されている。今後高齢者人口は増加傾向が続き、2067年には人口の38.4%に達すると推計されている。それに伴って今後認知症の患者数も増えると考えられ、それらの予防がますます注目されており、多くの研究がなされている。

外国人を対象とした先行研究からは、軽度から中等度（アルコール量に換算するとおよそ6~12.5g/日）の適度な飲酒は認知機能の低下を予防し、逆に過度の飲酒は脳の萎縮を引き起こし、認知機能の低下に繋がるということが分かっているが、飲酒と認知機能の関連性についての研究は欧米等で行われていることが多く、特にアルコールの種類に関しては、ビール・ワイン・リキュール等が主な種類で、日本酒・焼酎等日本の文化的飲料が含まれている研究が少ないため、日本を含め様々な文化圏で調査することが必要とされている。

そこで本研究では、日本の地域在住者を対象に、日常の飲酒習慣と認知機能の関連性について検討する。

研究期間は実施承認日から2020年3月31日までとする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

参加者が回答した、「日常生活についての調査（あなたの健康について）」と題した質問冊子の中の、性別、年齢、教育歴、飲酒習慣の項目及び認知機能検査の結果

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて対象者もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも対象者の方に不利益が生じることはありません。

研究責任者（連絡先）：

名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻

作業療法学講座 准教授 伊藤恵美

emiito@met.nagoya-u.ac.jp

〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20

電話/FAX 052-719-1870